文化

吉武自叙

027
115
2

027
115
2

慶應義塾大学図書之印

文化二年八月八日義絶

湖洲主人一順

鶯鳴てさのふる月と朱みりの利　如雪

硯子に浮し事ふの水霧　吉民

秋めけハひより細れ格られる　三雲

ち雨してすゝ月ハ西乃ゑ西ひ　水洲

お夏のせんさいとのとおもふ　蘿陵

雪ゑおされてまけぬ名立　爲章
おとゝをんな温泉よりもやはらかなる　左和
つい来て水屋る伯母う新宅　大英
髪先もゆもむ家〳〵男　敦東
ゑもすかまて中乃枝木　一井
ゑのこゝろの山ゝて仕事ふ手おしたら　英〻
門もひ〳〵かゝる法華三昧　蒲雪

志ゝしかき夢八目先ゑゝめく　東鳴
猶乃弦切てすちの新蕊　鳴春

同斤歌

ひゝの小月中ゑ出ぬゝふ乃月　宮民
酒ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ毛四この〻日の月　木洲
馬士に志かゝ乃ふゝら目ゑ乃　爲章
酒の業ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ見ゑ　三英

松阪八幡へ参りし月見かたの　蒲雪
すむかけや月の中なれみてこく　曼陵
見はくさぬ月は中より雪の声　芙つ
影をこ着てかけを志き弱そふ岩　芭蕉
家の様子きちんかくにやおぼの月　碓
つ玉まてもも月は如雪ゆりみ利　泊性
月のかけをこかまてこのをゆすれ水　大簧

待雪や月ハ明日見人雨乃庵　鼓東
今拉し水ゆかりぬ二日月　鳩巣
待雪や生洲乃鯉の小沃山　一井
中ふへすれ鶴も月は明るあ戈　左柳
天乙女くくりて年人月は嶽　東均

立見宴

芙蓉のおすくみうけちう蓋鉾子　め雪

安乙わとの雲八のへしつ秋の風　浪波
妹見せ笹乙種ゆきと丸木は　お泉
畑の菜みちくてきのふさるは爲　南調
よしめしと持てもむしの呻絲　推己
雲流萩のこちれて惜し行打戸　南柯
ゆ山月乙うつ原葉津の時間　萩南

高高や笹の古菜のうく表　斗麦
松風乙枕しあてハ乙郭乙秋　渕丈
むさくと線乙男ありくむ秋ハ　高孟
夫宮ゆる月ヨみくゆの萩の乙　里巾
稲妻乃通りぬけたる切通　楚乙
お遠し山お如乙安さの人　雲雄
萩乙ものいひ初る森起方　七十翁　為遠

こゝの炊くとて百十八秋の名月を小傷　豊水

墓場ハ秋あるまじきなりくれ　西黒鈴　岩水

あ徳庭五無庵

中秋明月雨志とゝろ又立る豊風豊　芽吹

ゝゝ松樹也かゝ徳ゝのゝ也秋のさゝ　菓子

ゝゝ一ノ月ゝさゝえき秋月ゝ　也鶏

ゝ秋しさゝゝ立りて見ハかくし戸　木槿

彩雲や牛さゝきたイて四の山　土木

洞津

二夜三秋かけ見てゝて彩の月　他力

蟬の羽又先さやかな利秋の風　葛屋

秋の夜也蕎を秋れむしの声　水玉

小萩の山ゝしれゝゝも煤のくし　子徳

ゝ入ハ洗しさゝもゝし安され山　玉尾

白法ハ蔵へて見こう秋の蟬　碧流

物の乃りふる涙なし炉の雨　魯栄

雨手洗の水底まめ星秋乃花　琴四

うつこのりと月よ白へハ安部の宅　左溟

十里の船見に市利秋の夢　鳥菴

まこもかりの木陰の畑う秋の蝶　十湖

如雪園主人

秋恋し山鹿峠とこ朱ふ利　秋水

ふかく八月ハ冨月ぬこ　毛径

菜青園

焼栗やそや面白ハ炭ハふり　炉雪

五十能川青ル社文や家紋庵　秋圃

厂の聲海ふ添こ赤ニ四ハ那　秋村

蕣やまこ明ぬ翌ふ咲ル安利　秋篁

松の音ゆるるもさびと秋の風　秋楊

中の宿扇手ふて見るり者り　妹峰

酒津

遠山も見えぬ斜ふ雨ぬ丁　羅笠

水さもなれ蓮ふ咲しめよ小田の戸　庶庵

鶴瑞寺

里遠し夫婦の袖の濡しく色　河口　珠

七月のかれしさみちて蛍の声　芋生

六かしし庵

貴くふ主のよ記者也枳殼垣　丘高

ものいまぬなか二日安利秋の蟲　角如

あさ風既山を見て蓮の戸口者　牛坡

既多の小さ表秋乃ゆふへ形　和松

ふくさみの旅人いなしふのも　ふ及

人ひとり出て見おくるあるの暮　一水

戸口にこゝぢつゝしは咲て秋の雨　四溪

夢の初やこゝやまふこゝろの内　千秋

ありがたや経堂のまへの魚釣舟　左右

秋の来て蝶もいとゝ戸を閉ぢ　小卜

沐さひし塀も壁方のメのこゝろ　枝青

稲妻を合せてこゝろ浪のこのけ　求魚

ふ二秋もすまましきつるる垣根小　社父

り秋ふかゝゝ米なれ朝は可野　強山

栗かゝの火ハ消ふり利ひの扉　梅雀

乳ぶゝハ栗の光ふり朝ふけ　吏紅

小林氏

二秋咲て赤の光とあるふりり　魯爲

ゆふ魚の檜垣よ夏乾月数ふか　左注
ぬさやうよ足へすきふり妹山　響海
菜の香れ日変かゝ来る鱠　交漁
引汐乃先よ立けり浦きの風　暁浦
ゑ鶯くへさはぐ夫れ山七秋れ風　其白
山婚乃ゝゝ也澤の滝乃ゝの世　流海

ゑれ也つゝ秋乃月之夜可来　横堂
蛍くゝの板と礼思ハ乃森の声　雪邑
見ゝそ也し小雪ハ安見ゝ利茶琴　盈毋
菊よ森を掃こむ垣根哉　一の童
月影や秋よひそまの赤梅せ水丈　清泉
明ゝさらいや木の系芝ゝ高田雨　四文

一の声よるくまなくて見えそしし　楊素

松よふく風も高くいて秋の琴　桃家

京都　青林堂

御普請御小役者
勝田喜右衛門
島丸通下ル二条上町
勝田善兵衛　梓

奈良女子大図書館
20151
昭和　年　月